

まどに居てとあり、娼婦をいふは、唐詩に新粧本絶世と見えたり、  
 〔貞丈雜記<sup>二</sup>品〕一人の妻を御新造と云ふ事、婚禮の前に、其の妻の居所を新しく造る故、あたらし  
 く造ると書きて、しんぞうと云ふ也、

〔秋齋問語<sup>一</sup>〕尾州和多郡邊にてよめ入の事、富人新く船をこしらへ、へさきに婿とよめの紋を  
 すへ、是にのせておくる、さればよめを御新艘ともいふなり、名こや口堀川へ來る海船に、ふたつ  
 紋つきたる多し、古風なる事にや、

〔橘庵漫筆<sup>初編五</sup>〕士の妻女稱して御新造といへり、いかにも此字義あたらず、御深窓<sup>しんぞう</sup>と云べきを  
 誤りつたふるものか、御深窓は奥様と云に對して稱するなるべし、李白の詩に、美人捲珠簾深坐  
 嫩蛾眉と作、長恨歌に楊家の深窓に養れといへり、何れにも御深窓と書が禮なるべし、秋齋問語  
 の新艘の説野にして隘哉、陸氏が傾城の新艘の説は可なるべし、

〔松屋筆記<sup>百</sup>〕花<sup>〇</sup>媿。

新撰筑波春部に、花よめごせもよその人かは、青柳のいとこどうしが契りして、

〔倭名類聚抄<sup>二</sup>孫〕爾雅云、子之子爲孫、<sup>尊反、和名、無萬古、</sup>一云比古、

〔箋注倭名類聚抄<sup>子孫</sup>〕說文、子之子曰孫、从子从系、系續也、釋名、孫遜也、遜遁在後生也、廣雅、孫順也、

令集解、嫡孫俗云宇麻古也、衆孫俗云宇麻古也、靈異記、孫亦訓于、方古拾遺集、重之母歌、小序、國章

歌、謂子之子爲牟麻古、按宇麻古、无麻古、一聲之轉耳、馬訓宇麻、又訓无麻、梅訓宇女、又訓无女、郁子

訓宇倍、又訓无倍、俗訓宇自奈、又訓无自奈之類、是也、蓋中世以來、其所呼非宇非牟、今俗亦爾、後人

多書作牟、然非正呼牟也、又今俗呼孫爲麻古、即宇麻古之急呼也、令集解、嫡孫衆孫並云宇麻古、蓋

無別稱也、一云比古四字、舊及山田本、尾張本、昌平本、曲直瀬本、下總本、皆無、獨廣本有之、今附存、伊

呂波字類抄、不載比古之名、按孫有二義、一訓比古、即子之子也、比者隔物之稱、與水譬並訓、比同、曾